

5班 ワークショップ内容

- ・組織への住民参加をどう促すか
住民参加の仕組みづくり
- ・オープンショップ 強制でない
参加したいときに参加できる権利の保障
意見を言いたいときに言える権利の保障
- ・コミュニティ再生
- ・少数意見も反映される土壌
- ・自治区の恒久性 こだわりすぎると市の融和につながらなくなる?!
地域の意見が通る組織の必要性
- ・自治基本条例の中にどうコミュニティを位置づけるか
- ・自然を生かす 便利なまちにする
交通、ニーズ調査
- ・区域を超えた、区域にこだわらないつながり
- ・住民意識改革 互いを認め合うこと
官主導のタテ線から民主導のヨコ線への移行（強制ではなく、協働による移行）
- ・住民の意見を大切にす
- ・郷土に愛着を持てるような、互いに認め合える場をつくる
同じ住民としての一体感、共生
- ・各地区のよさを生かす（自然）
無理にひとつにしない、破壊しない
- ・無理に均一かせせなくても、「差」があってもそれを認め合う
住民が元気で楽しく暮らせる
互いに支え合い、助け合う環境づくり
- ・子どもたちをどう守り、育てていくか
- ・子どもと地域のつながりを強める
いずれ地域を担う子どもや若者が参加できる仕組みづくり
- ・若い人の意見をどう引き出すか 機会を与えることが大切
- ・各地区の組織を大きくしすぎると個の意見が通りにくい
- ・市域の広がりに対応した参加しやすい仕組み（冬期間、会場の選定）
- ・女性の力
女性の意見を大切に
- ・伝統文化を守る
- ・町内会の位置づけ
- ・今ある町内会等をどう生かすか 継承できる組織はそのまま生かす
- ・自治地域にこだわらない組織（テーマごとにまとまる組織）

発表より補足

- ・ フリートーク的にどんどん意見を出してもらった
- ・ 基本的理念は、「住民が元気で楽しく暮らせるまちづくり」
- ・ これを達成するための方法
 - ・ 個人の意見を吸い上げる 個人の保障 オープンショップ
 - ・ お互いに認め合える場をつくる
 - ・ 女性の力、若い人の意見をどう引き出していくか
 女性や若い人たちが参加できる仕組みづくり
 - ・ 住民参加には、住民の意識改革をしていくことが必要
 キーワード 「触れ合う」「求め合う」「助け合う」「支え合う」